

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズユーライジングスター★藤原台		
○保護者評価実施期間	1/10/2025		1/25/2025
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	1/10/2025		1/25/2025
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2/28/2025		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アート・ミュージック・クッキングのコンセプトとして強みを活かし、こどもの才能を最大限に引き出し開花させること	得意分野を褒め、伸ばすこと	物事の背景・文化も共に学ぶこと
2	縦割りでインクルーシブな療育の中で異年齢のこどもたちが一緒に過ごすことで、助け合いや思いやりの気持ちを育むなど社会性・協調性が育つこと	集団で取り組むことができるルールのある遊び・ゲームを提供すること	遊びのルールを年上のこどもが年下のこどもに教えるなどの行動を促し、自然な学びの環境を提供すること
3	指導員が考え準備した活動を通して創造的な遊びへと発展させること	おもちゃなどの道具に頼らず、何も無いところから工夫して遊ぶ楽しさを見つけること 例) 指人形とリズムあそびなど	身近な生活の経験を遊びに取り入れることで、楽しみながら学び、日常生活に対する理解や興味を深めること 例) ごっこ遊び(お買い物・お料理) 気持ちシアター(表情遊び) 体をつかった遊び(タオルで洗濯ごっこ)

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	チームで十分な連携をとり支援を行うこと	ゆとりある人員を常時確保し、職員間で情報を共有する機会が不足していること	人員確保のための求人や、職員の意見や情報共有のためのツールの活用や全員参加のミーティングの実施回数を増やすこと
2			
3			

公表 護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ウィズユライジングスター★藤原台

公表日 2025年2月 28 日

利用児童数 6人 2025年 1月 25 日 回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2	3	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリア フリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思います か。	3	1	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いま すか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いま すか。	6	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある 支援が受けられていると思いますか。	1	1	0	4		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内 容と合っていると思いますか。	1	3	0	2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観 的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成され ていると思いますか。	6	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され 、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4	0	0	2		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	2	1	0	3		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこ どもと活動する機会がありますか。	1	0	2	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等 について丁寧な説明がありましたか。	6	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされまし たか。	6	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレー ニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われ ていますか。	1	1	2	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の 状況について共通理解ができていると思いますか。	4	1	1	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか 。	3	2	0	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	0	0	1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士 の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また 、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の 交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされています か。	2	1	1	2		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備され ているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があること について周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に 対応されていますか。	6	0	0	0			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5	0	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	0	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	0	0	5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	0	1	0	・2回ケガをして帰ってきたが、求めなければ特に説明がない。	・子ども自身、子ども同士のひっかき傷や噛み跡などもこちらで把握できている場合は今後保護者様へ報告するよう努めて参ります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	2	0	0	・活動内容や本人の様子をもう少し詳しく知りたい！家庭でのコミュニケーション材料にもなるため。	・HUG（成長療育支援システム）の活動記録などに日々の様子を記入しておりますが、さらに充実した内容になるよう努めて参ります。

公表 業所における自己評価結果

事業所名 ウィズユーライジングスター★藤原台

公表日 2025 年 2月 28 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	・広すぎることが、子どもの不安定感や療育のやりにくさにつながることもあるため、適度な広さであると考えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3		・余裕ある人員確保で質の高い支援ができるよう努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2		・一人ですごせる場所など特性によってあると良いスペースが確保できるよう努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	・学習ルーム、遊戯スペース、団楽スペースと部屋ごとに活動にあった空間となっている。	・こども達自身の片づけで、物の場所が移動することを防ぐためこどもにもわかりやすい収納を整備するよう努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・アートルーム、ミュージックルームを2階に設備している。	・ゆとりある人員を確保して、個別の部屋にて個々に充実した対応ができるよう努める。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3		・職員参加のミーティングの機会を増やすよう努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3		・把握した結果について話す機会の確保と業務改善に活かしていくよう努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・経営者としてスタッフによく配置されていると感じる。	・皆の意見をまとめて周知し、業務改善に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・月1-2度のミーティングが行われている。 ・全体の研修はあった。	・ゆとりある人員確保で、研修の機会などが増えるよう努める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2		・職員間での共有に努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3		・日々の行動観察などの簡単なインフォーマルなアセスメントが共有できるツールの導入に努める。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	3		・遠方からの利用者が多く参加者が限られてくるが、地域連携を踏まえた支援のなどに工夫をしたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	3	・立案に対してオープンな体制である。	・チームで立案する機会を増やすよう努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	3	・集団で参加するイベント的な活動は、季節や自然、科学、文化、芸術、運動などを考慮し一年を通して体験できるよう工夫をしている。 ・こどもの状況に応じて変化をもたせている。	・集団でのイベント的な活動に工夫はあるが個別活動についてはこどもの状況に応じてさらに充実した活動になるよう努める。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	3	・支援の前日にはSNSを通じて職員間の役割分担などの確認を実施している。	・イベント以外の日常においても日々のミーティングが簡易に行えてチームが連携して支援できる体制を整えるよう努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4		・集団参加型のイベントの時の振り返りの様に、個人の気づきの報告が簡単に共有できるシステムづくりに努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・成長療育支援システム(HUG)を利用し、毎日個別の支援記録をとっている。	・保護者への支援記録の共有、フィードバックや、システムの周知に努め、支援の改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	2	・電話にて参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		・必要があれば各関係機関と連携して支援を行うように努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		・遠方からの利用者が多いため地域との関わりは薄い機会があれば希望により参加も考慮していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・定期的に親との懇談を行う他、れんらく帳などで必要なときに連絡している。 ・保護者さんによってはその機会がある。	・HUG（成長療育支援システム）の活動記録などの内容の充実にも努めるなど、伝え合う機会を増やすよう努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		・研修の機会や情報の提供に努めます。	
保護者への説明	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・契約時に説明にしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3		・父母会、保護者会など保護者同士のつながりはないため希望があれば機会を設けるよう努める。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		

寺	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・Instagramの充実。 ・公式LINEを通じて行事予定の共有や連絡事項の情報を保護者に対して発信している。	・成長療育支援システム(HUG)の活用の周知を促進させ、日々の活動内容などの共有も深めていきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	・鍵付き戸棚などで保管している。 ・個人で漏洩がないように努力している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		・利用者一人一人の状況に合わせて対応していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		・希望があれば、対応していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		・一部マニュアルはあるが、共有が不十分なため研修に盛り込みながら、共有・周知できるように努める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2		・必要な訓練を行うよう努める。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	・該当者なし。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		・該当者には十分に聞き取りをして対応していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		・安全計画の作成と研修、訓練が実施できるよう努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		・家族等への周知に努める。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1		・事例が生じた場合は職員間で分析・改善点の確認をしあい、職員間での共有、再発防止に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2		・ケース会議等行いながら虐待防止に努める。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0			